



宮沢賢治と地学

(ver.2)



対象者：宮沢賢治の作品を深く読みたい人
宮沢賢治の作品の科学の要素を
知りたい／学びたい人
地学の魅力に理科とは違う角度から
迫りたい人

I. 序

宮沢賢治※の名前を聞いて、何を思い浮かべますか？
小学校の国語で何か読んだかも、よくわからない言葉がたくさん出てきて困ったんだよねという方が大半かもしれません。実は彼は優れた科学者で、難しい言葉の中には専門用語が由来のものも少なくありません。彼が愛した地学について知ると、一見難解な作品が秘めた豊かな世界が見えてきます。イーハトーヴをもっと楽しむ地学の本をご紹介します。

キーワード：宮沢賢治，地学，地質学，鉱物，作家論，作品論

II. 賢治の世界を知る

■宮沢賢治，1995、『宮沢賢治全集』筑摩書房。

今や彼の作品はネットでも読めますが、より深く知るなら筑摩の全集がおすすめです（文庫版でも大丈夫）。賢治が書いたメモや原稿に忠実なだけでなく膨大な異稿や解説も添えられており、彼の創作スタイルを知ることができます。まずはお気に入りの一作を探してみてください。

■中地 文（監修），2016、『賢治童話ビジュアル事典』岩崎書店。

賢治の作品を読むと、聞いたことのない言葉がたくさん出てきて戸惑うことがしばしばあります。そんなとき役立つのがこの図鑑。たくさんの写真や図で、賢治がイメージしていた鉱物や動植物、当時の道具などを知ることができます。1日中見ていられる1冊です。

■ミュージアムパーク茨城自然博物館，2019、『宮沢賢治と自然の世界——石・星・生命をめぐる旅』。[絶版]

賢治の作品は、文学を扱う研究者だけではなく、様々なジャンルの専門家を魅了しています。これは賢治を愛する自然史博物館の学芸員が開催した企画展の図録です。自然史について幅広く触れているだけではなく、彼の人となりを知る概論としても重宝します。

III. 賢治の世界を支える地学

■宮城一男，1975、『宮沢賢治 農民の地学者』築地書館。[絶版]

賢治の“地学愛”の強さについて扱った書籍としては最初期のものです。古い書籍なので、ここで取り上げた他の書籍で批判・否定されている部分もあるのですが、著者が

一般向けに行った講演に基づいた内容なので知識があまりなくても読みやすく、このテーマの書籍としてまず読むならばおすすめです。

■加藤碩一・青木正博，2011、『賢治と鉱物』工作舎。

色彩の表現として多用される鉱物がどんなものかわからず、イメージが掴めないという方にはこちら。掲載された美しい写真を見れば、賢治が描こうとした色に近づくことができます。鉱物の解説は専門的なので、まずは作品を読みながら写真をぱらぱらと眺めてみるとよいかもしれません。

■加藤碩一，2006、『宮澤賢治の地的世界』愛智出版。[絶版]

筆者は産業技術総合研空所の研究者であるとともに、熱心な賢治の愛好家として数多くの執筆や講演を行っています。作中の岩石や鉱物、土壌、化石といった広範な内容が網羅的に解説されていて、「こんな小ネタがあったのか!」という発見に満ちています。

IV. 賢治の世界を読む地学

■鈴木健司，2011、『宮沢賢治文学における地学的想像力——〈心象〉と〈現実〉の谷をわたる』蒼丘書林。

賢治の歩いたフィールドを実際に調査するとともに、当時の文献等にもあたることで彼の知見や見解を推察しています。作中の地学の要素を指摘するのみで終わってしまう本も多い中で、作品の読みにも踏み込んでいる点がユニークで、興味を掻き立てられます。

■鈴木健司，2022、『宮沢賢治文学における地学的想像力2——〈岩頸〉表象の検証と精神医学的接近』蒼丘書林。

上記の著作から10年を経て、新たな調査や研究の成果が盛り込まれています。とりわけ表題にもある岩頸に関しては多様な観点から考察されており、地学の世界と幻想の世界がオーバーラップする「檜ノ木大学士の野宿」などの作品の見え方がぐっと深まります。

※ ここでは基本的に「宮沢賢治」と表記しますが、書籍名に準じて一部「宮澤賢治」とします。